

萱

2019·12

風萱集

亀田虎童子

まちまちの竿の長さや鯨日和
あたふたと生きて貪る松茸飯
稲妻や馬刺に舌のもつれたる
もも色ははにかみのいろ桃冷やす
十三夜過ぎていささか気むづかし

木村 嘉男

独眼竜と高きにのぼり逢ひ得たり
龍たれば氾濫せしむることなかれ
しぐるるや瑞巖寺窟陰閑たり
水鳥のさびしき数の昨日今日
北風に鳴る晩照坂の杉木立

出牛 進

前ばかり向いてはをらず蟻の列
リハビリのストレッチなり秋真昼
故郷の畦道消ゆる稲田かな
車窓より先頭車両凌霄花
鴈鳴いて一句たまはる日和かな

松下 道臣

熱帯夜むやみやたらに腹の立つ
ジーンズの大きな裂け目海開き
甚平着て心得顔をしてしまふ
説教の自慢にかはる冷し酒
空襲で真つ赤な空の書を曝す

小島 良子

仏手薯今日の心のかたちして
手に受けし水道の水秋めける
細枝ごと合歡の散りくる葛飾野
亡き人と連れ立ちてをり芒原
人を呼ぶ声のひびけり芒原

萱集

進選

アンデスの笛の音を聴く秋彼岸
鶏頭の一鉢向きを変へてみる
ビル中に稲架の組まれて山羊もゐる
秋霖やポニーは長き尾を垂らし
木菟とにらめつこして横向かす

東京 加倉井たけ子

天高し生まれ来る者逝ける者
迂闊なり昨夜は十六夜明けの月
地球背にビームが走る星月夜
細流に蔣栗拾ふ山の朝
秋麗 下 祉 春 宮 御 柱

東京 ふなかわのりひと

水底に生死のありて断腸花
珈琲のかすかな甘み実紫
消しゴムの角かど丸む秋の夜
ちぎれ雲いづこへゆくや障子貼る
曼珠沙華カメラ目線の犬と婆

埼玉 鈴木 愛子

夜台風二人で過ごす有り難さ
みのこづち道順までも悟られり
落ち葉敷く一村だけの鎮守様
後ろから影の伸びくる秋日かな
大根洗ふあねさ被りの笑ひ声

東京 野村 宏

曼珠沙華内なる炎吐くごとし
隣家より鋏の音や松手入れ
椿の実机の上に爆ぜにけり
虫の音や開け放しおく寝間の窓
髟たてて猫も聴きけり秋の声

千葉 中山 恵子

母蟻螂登るいのちの高さかな
新しき辞書を繰る窓秋の宙
スカイツリー揺るる水而や鯨日和
群去りて紫蘇の実つつく一羽あり
根を曝し大樹残れり台風過

東京 武田 未有

縄文の丘を覆へりいわし雲
小鳥くるアニメ映画の封切日
秋澄むやきちんと三合米を研ぐ
教会の屋根の緑青ひはの群
火の恋し絆創膏の剥れ跡

埼玉 新沢 伸夫